

琵琶島・宇賀神社の案内

上信越国立公園 野尻湖琵琶島 宇賀神社

位置

長野県の最北端、長野県と新潟県の県境に位置し、信越線黒姫駅より北へ四キロメートルの地点にあり、黒姫駅よりバスで約十五分、野尻湖(その形、芙蓉の葉に似たるをもつて芙蓉湖とも称す)の中の小島、琵琶島に鎮座する。その形、楽器の琵琶に似たるをもつて琵琶島と云う。一名、弁天島とも云う。

祭神

御神徳
農業 衣食住
倉稻魂命(倉稲魂命)
市杵島姫命(通称弁財天) 海運 福徳 水
大己貴神(大國主命の別名) 福徳 商売 縁結
天照大神ほか、駒遇突智命(火産靈神)、健甕名方靈命、大山祇神、菅田別命(応神天皇)を合祀する。

神事

例大祭 例祭期間 八月二十六日(二十九日)
例大祭 八月二十六日(湖上渡御)
神幸祭 六月毎に斎行する。(次回は平成二十二年)
式年大祭 期間 八月二十一日(二十九日)
宝物の拝観(二十三・二十四日の二日間)
宇賀弁財天・十五童子像
野尻湖御筆の額

沿革

天平二年(七百三十年 第四十五代聖武天皇)五月、当時の沼尻村の産土神として創建されたようであるが、寛永年中旧飯山城主松平遠江守再建口碑の趣によると、天平年中、僧行基当社に参拝し、社殿を造り、御神体を刻み安置し、弁財天女と号せしより弁財天と誤称したとされており、初め弁財天または宇賀弁財天宇賀神と称し、後に宇賀神社と云う。僧行基が刻み安置せし御神体は今も現存している。
平安、鎌倉、室町を経て、戦国時代に及んで神徳の発揚とともに武家の崇敬すること厚く武運長久を祈る。
越後の上杉謙信もまた崇敬すること厚く、重臣宇佐美定行もまた野尻城主(琵琶島城)となりて本社を崇敬すること厚く、自ら宇佐美を宇佐神と改め、社殿を補修して、太刀一振りを奉納する。後に徳川時代に至り幕府の直轄となる。
慶長年(一五九六・一六一五)、中森右近大夫忠政飯山城主となるに及んで本社を崇敬して、武運長久を祈る。以来、歴代飯山藩主の崇敬の場所となり、武運長久の祈願所となる。
寛永五年(一六二八年 第九代明正天皇)松平遠江守忠俱、本社を再建し社領十石を寄進し、社紋立契を給う。また、野尻湖の水を灌漑に利用している高田藩下住民も崇敬すること厚く、藩主松平光長その恩頼に感謝して寛文五年(一六六五)石灯籠一对を寄進する。なお、現在の社殿は慶応二年(一八六六)に建てられたものとされ、寛永年間の社殿は、現在の本殿の中に残されている。
明治六年四月 郷社に列格
明治四十二年四月 小宇にあつた社八社を合社し現在にいたる。

皇族方の本社への参拝

それぞれ玉串料金一封を賜る。
北白川宮大妃殿下ご参拝
大正十一年九月 久瀨宮良子女王殿下(香淳皇后)ご参拝
大正十二年八月二十三日 (本殿右後方に記念碑あり)
大正十三年八月二十三日 久瀨宮多壽王殿下、同妃殿下
東伏見宮邦彦王殿下、同妃殿下ご参拝
お手植えの松を植えられる
大正十四年八月 久瀨宮妃殿下、東伏見宮邦彦王殿下ご参拝
大正十五年八月 久瀨宮妃殿下、北白川宮大妃殿下ご参拝
久瀨宮大妃殿下ご参拝
山階宮大妃殿下ご参拝

勝海舟 揮毫の額

明治十一年(一八七八)七月に、勝海舟先生が明治天皇陛下北陸巡幸の下見検分のため野尻を通り、当時架けられたばかりの大橋を渡って本社に参拝した際、当時の祠官栗田寛齋氏が勝海舟先生に所望して、額に「宇賀神社」と揮毫していただいた。その額は、長く正面大鳥居に掲げられていたが、傷みが激しくなつたため取り外され、現在は模書の額が掲げられている。
なお現在の大鳥居は、平成十八年 檜にて新たに建立されたものである。

宇賀神社大般若経

この琵琶島の弁財天の御宝前に、芋川庄の庄司であつた藤原家から奉納になつたという古い大般若経があつた。しかし戦国時代、武田信玄に従つて大井氏がこの所まで出陣した際、携帯されたと言われている。今は長野県佐久市の安養寺に伝えられ、県室に指定されている。

奉才入備玉前 勸進沙門了妙
延文四年三月十六日 供養了
延文四年(一三五九)三月十六日、備了妙水内郡沼尻琵琶島弁才天に大般若経を施入す

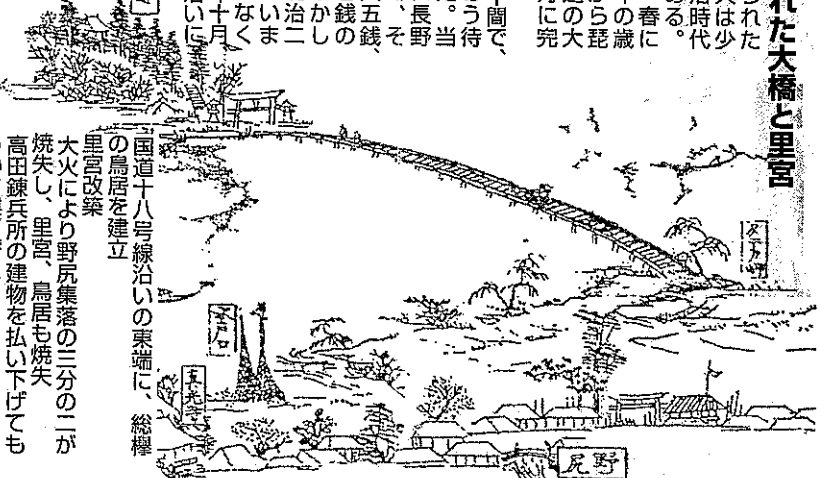
宇佐美定行の墓

長尾一族の長尾政景は、新潟県南魚沼郡坂戸城主であつた。上杉謙信二十一歳の時、政景は一度謀叛を起したが、謙信はすぐにこれを征服した。しかし、政景は勇気もあり、政治的手腕もあつたので、処分しなかつたばかりか後に姉と結婚させて、その子景勝を自分の養子とした。謙信がこれほど信頼している政景でしたが、武田信玄と相通じ再び謀叛を企てているとの噂が謙信の耳に入ったことを知つた宇佐美定行は、もし政景が謀叛を起せば春日山の回廊も危うくなる。また謙信が政景を殺せと命ずるようなことがあれば、肉親が殺しあふ不徳の大將として諸將の信頼を失うことになり、いずれにせよ上杉家にとっては由々しき大事であると考え、ついに一策を案じて、永禄七年(一五六四)七月五日、定行は政景を野尻湖の舟遊びに招き魚釣りなどをしながら、政景に、「貴殿は信玄と通じ、謀叛を企ておるとの噂が謙信公の耳に入つている」と話し、一心無きことを殿に披瀝して身の潔白を証してはと諫めたが、政景はこの諫言に耳をかかざつた。かねて用意していた漏柱を抜き、定行は背後から政景の腰帯に抱きつき、ともに野尻湖に沈み我が身を犠牲にして上杉家の安泰を図つた。時に政景三十九歳、定行七十六歳であつた。後にこれを知つた謙信公は、定行の忠節に感激して定行の霊を弔うため、その具足を島の一角に埋め、謙信自ら教塚をたて丁寧に弔つたのが、後世墓所として伝えられてきたものである。
なお、長尾政景の墓は、当所真光寺にある。

琵琶島にかけられた大橋と里宮

この琵琶島にかけられた大橋については知る人は少ない。この大橋は明治時代にかげられたものである。明治九年(一八七六)春に村の有志により約三年の歳月をかけて、立ヶ崎から琵琶島にかけられた木造の大橋で、明治十一年七月に完成したものである。
巾三間、長さ二百五十間、所々に人や車のよけあう待避所が設けられていた。當時この大橋を渡るのに長野県知事の認可が必要で、その定めとして大人一人五錢、小人一人三錢、車馬七錢の橋銭が徴収された。しかしながら、この大橋は明治二十二年の春、補修しないうままに朽ちてしまひ渡れなくなつたので、同年十月、現在の旧国道十八号線沿いに里宮が建設された。
明治四十三年

大正十五年七月 国道十八号線沿いの東端に、総檜の鳥居を建立
昭和三三年八月十九日 里宮改築
同 年十一月 大火により野尻集落の三分の二が焼失し、里宮、鳥居も焼失
高田練兵所の建物を払い下げてもらひ、建て替え
老朽化のため里宮取り壊し
神宮より拝領した御遷宮時の古材で神殿を造営し、里宮を再建



水死者の慰霊像

野尻湖で水死された人々を慰めるために、その遺族が、琵琶島南側に湖に向かって建立した。
その石像には、次のように刻まれている。
父さん後して何処へ行く お前の背中に寒々と 月が涙にうるたてる